

新城市まち・ひと・しごと 創生総合戦略の進捗状況

基本目標 1 希望が叶う、安心・全で豊かなまちを創る

【数値目標】

数値目標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「住民自治の活性化」満足度	59.8%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A
「高齢者の自立支援や福祉対策」の満足度	59.9%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

戦略 1 市民自治社会向上

施策方針 まちづくりの協働体制を整備します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「住民参加への取り組み」満足度	65.0%	—	72.3%	72.3%	70.0%	A
「住民自治の活性化」の満足度	59.8%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A
「若者が活躍できるまち実現事業」の満足度	—	—	100%	100%	70.0%	A
「若者が活躍できるまち実現事業」関連（延べ数） U I J ターン者 起業者	— —	4人 2人	4人 2人	5人 2人	5人 2人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「若者が活躍できるまち実現事業」におけるU I J ターン者、起業者の人数は、目標値を達成しており、平成 30 年度で、U I J ターン者 5 人、起業者 2 人となっている。
- ・自治基本条例運用事業において、市民自治社会の実現のため、様々な立場の人がお互いに尊重し合い、自らが自らのまちを作るための場と機会を整備し、平成 29 年度では市民自治会議 6 回、第 6 回市民まちづくり集会 1 回、中学生議会 1 回、女性議会 1 回開催し、平成 30 年度では市民自治会議 5 回、第 7 回市民まちづくり集会 1 回、中学生議会 1 回、女性議会 1 回実施した。
- ・若者が活躍できるまち実現事業では、まちづくり活動への意識の高い人材を育成することで、起業やU I J ターンの促進にも寄与を図ってきており、平成 30 年度では、若者議会全体会 15 回、分科会 116 回、地域交流会、市議会との意見交換会を実施し、U I J ターン者、起業者につながっている。

【さらなる推進に向けて】

- 本市では、まちづくり活動の担い手の育成や地域自治区の推進、情報の共有など、行政経営における市民参加と協働体制の見直し・整備を進めてきており、若年層に対し、政策の浸透や、まちづくりへの参加意欲が高まってきているが、一過性の参加ではなく、継続的に市政に参加する意識付けが必要である。
- 若者政策が若者自身へ浸透してきており、まちづくりへの参加意欲も高まってきているが、高齢者・男性の参加が多いなど、参加世代が偏る傾向がある。

施策方針 広域連携・交流を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「広域連携への取り組み」 の満足度	56.0%	—	62.3%	62.3%	58.0%	A
東三河広域連合による共 同処理事務本格実施数	—	4事業	6事業	7事業	8事業	B
サテライト教室参加学生	—	0人	9人	15人	20人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・東三河広域連合による共同処理事務本格実施数については、平成 27 年 1 月に東三河広域連合が設立され、4つの共同処理事務（消費生活相談、社会福祉法人の認可等）を実施した。平成 28 年には2事務（滞納整理、航空写真）、平成 30 年には1事務（介護保険）を開始し、平成 30 年度末現在では7事務を実施している。
- ・平成 31 年4月には1事務（旅券発給申請）を開始し、目標を達成する見込み。
- ・また、共同処理事業のほか、ほの国スタンプラリーや SNS 等を通じた情報発信、東三河ブランドショップの検討等が進められている。
- ・平成 29 年 2 月には、「東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、地域全体の発展につなげる取組を、東三河地域の8市町村が連携して実施している。
- ・サテライト教室参加学生は、愛知大学との連携により、大学生の参画のもと、平成 29 年度に地域計画の策定、平成 30 年度には年金の実態調査に関連する取組が実施された。

【さらなる推進に向けて】

- ・東三河広域連合が設立され、東三河広域連合広域計画の下、共同処理事務、広域連携事務など、東三河地域の地域力と自立力を高めながら将来にわたる持続的な発展に向けた取り組みが進められている。
- ・今後も、東三河地域の8市町村が連携を深め、「東三河はひとつ」を合言葉として広域連携事業や権限移譲事務、共同事務を進めていく必要がある。
- ・東三河、奥三河地域の持続的な発展のため、関係市町村等との連携や、魅力と活力に満ちた広域的な地域づくりを進めてきたが、今後はさらに、老若男女問わない見やすくわかりやすい広報活動を進めていくことが必要である。
- ・大学との連携を通じて、若者が地域に入り、実態調査や地域課題の掘り起こし等の取組が行われている。
- ・今後も、大学との連携を通じて若者が地域の実情を知り、魅力の発見し、地域への愛着を深めるための取組を進めていく必要がある。

施策方針 地域内分権の担い手を組織します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「住民自治の活性化」の満足度	59.8%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A
「住民参加への取組み」の満足度	65.0%	—	72.3%	72.3%	70.0%	A
地域計画策定	—	2 地区	2 地区	8 地区	10 地区	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- まちづくり活動の担い手の育成や地域自治区制度の推進、情報の共有など、行政運営における市民活動と協働体制を進めてきており、地域自治区制度に直接・間接的にかかわる住民が多くなってきたことで満足度が向上し、すでに目標値は上回っているが、さらなる制度の理解と浸透を深めていく。
- また、地域計画の策定においては、平成 28 年度では 10 の地域自治区中、2 地区であったものが、平成 30 年度では 8 つの地域自治区で地域計画が策定されており、令和元年度に残りの 2 つの地域自治区においても策定していく予定である。
- 自治振興事務所長市民任用事業においては、今後導入を検討している地域マネージャー制度との関係・運用方法が課題となっている。

【さらなる推進に向けて】

- 市では、行政運営における市民活動と協働体制を進めており、残る 2 地域自治区においても、令和元年度には策定予定となっている。今後も、地域運営の視点や住民意識の向上を図っていくことが必要であるとともに、持続可能な地域づくりを効率的・効果的に実践していくため、策定された計画を今後いかに効果的に推進していくかが重要であり、住民意識の醸成を図っていく必要がある。

施策方針 国際交流活動を応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「国際交流への取り組み」 の満足度	63.6%	—	67.4%	67.4%	66.0%	A
海外派遣参加者が市政に 興味を持ち、市の行事に参 加する（延べ数）	5人	7人	14人	25人	50人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・新城市国際交流協会の活動を核に、民間の国際交流団体への支援や文化交流事業を実施、青少年の海外派遣、学校間交流などの機会の提供を行ってきており、姉妹都市から国際交流員を招致し、NC会議に貢献した。
- ・また、また、国際交流協会とも協力しながら、市民とスイス・ヌシャテルの合気道チームの交流活動を行ってきており、「国際交流への取り組み」の満足度は、徐々に増加傾向となっている。
- ・海外派遣参加者が市政に興味を持ち、市の行事に参加する人数においては、目標値に届いてはいないが、平成30年に開催されたニューキャッスル・アライアンス会議では、おおよそ7千人が関わり、市内全13小学校の児童がイベントに参加したり、多くの中高生がボランティアやユース部に参加し、外国人参加者との交流を通して、若者の間でも国際交流の関心が高まってきている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、グローバル人材育成事業や、市国際交流協会支援事業などを通して国際交流の機会の場を提供してきたが、国際交流への取り組みへの満足度は増加した。市内とスイス・ヌシャテルの高校生の交流等、教育、ビジネス、文化、観光の4分野で、他の加盟都市と協力し、ニューキャッスル・アライアンスの枠組みを活かしながら、海外派遣参加者はもちろんのこと、市全体が交流できる機会を創造していきたい。

施策方針 女性が輝くまちをつくります

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
フォーラム満足度	70.0%	—	100%	100%	90.0%	A
合計特殊出生率	1.35 (社人研推計) H31	—	—	—	1.59	—
女性創業者数（延べ数）	—	0件	3件	10件	6件	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 男女共同参画を促進するための学習、啓発活動、プラン策定等を行い、市民の理解を深めるとともに、子育てしやすい、女性が働きやすい環境の整備や、起業支援を行ってきており、女性創業者数は、10件（平成29年度3件、平成30年度7件）と目標を達成している。
- 特に、輝く女性創業支援事業においては、平成30年度において、勤労青少年ホームを活用したウィメンズカレッジの開催を支援し、市内女性起業家が64教室、参加者311人の利用により、活躍の場や交流の場を支援し、自らの事業を周知させ新しい人脈を作った。
- また、女性創業者や、起業支援者へのヒアリングやインタビューを行い、実際に必要な起業支援についての情報を収集するなど、女性の創業者の増加につながっている。
- 今後、女性創業者の増加を図っていくためには、子育て支援も重要となってきたり、放課後児童対策事業においては、児童クラブ利用者は近年急増傾向にあることから、新たな開設場所の確保が必要になっている。

【さらなる推進に向けて】

- 子育てしやすい、女性が働きやすい環境の整備と企業支援等を行ってきており、女性の創業者も目標を達成してきているが、さらにこれらの事業の周知とともに、子育て支援のさらなる充実や、気軽に相談できる窓口など、起業しやすい環境を整えていくことが必要である。
- また、女性が起業しやすい環境づくりを進めていくためにも、さらなる事業の発展を図っていくことが必要である。

施策方針 公共交通網の整備と利用向上を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」の満足度	36.2%	—	35.5%	35.5%	55.0%	C
バス路線利用者満足度	1.09P	1.07P	1.08P	1.09P	1.13P	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市では結節に配慮したバス路線網を構築し、通学や通院などの日常生活の足の確保努めてきたが、「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」の満足度については、平成 26 年度に比べ、平成 30 年度では 35.5%と減少している。
- ・公共バス運行事業においては、新城市地域公共交通会議を開催するなど、市内のバス運行について、協議を進めてきたが、少子・高齢化に伴う公共交通利用ニーズの変化に適應できていないのが現状である。

【さらなる推進に向けて】

- ・少子化に伴う学校の統廃合や高齢者の増加に伴い、結節に配慮したバス路線網の構築や、通学や通院など、新城市地域公共網交通網形成計画に基づき日常生活の足の確保に努めてきたが、市民の満足度は減少している。今後は、利便性を向上させ、利用者の増加を図り、かつ急速に進む高齢化に対応するため、早期に路線の大規模な再編を視野に入れた公共交通網の見直し進めていくとともに、あらゆる制度を活用し、地域住民が主体となってよりきめ細かな日常生活の足の確保できる体制を整えていく必要がある。

施策方針 道路網の整備を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「円滑な道路網の整備」の満足度	60.4%	—	62.0%	62.0%	65.2%	B
「快適な生活道路の整備」の満足度	44.3%	—	50.9%	50.9%	48.6%	A
橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁長寿命化修繕率	2.46%	3.34%	4.92%	7.02%	13.93%	B
舗装修繕計画に基づく舗装修繕実施	0 km	2.1 km	3.8 km	4.0 km	8 km	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・利便性の高い住環境整備を進めるとともに、安全性・快適性・信頼性を確保することを目的とした道路網の総合的な整備を進めており、橋梁長寿命化については、目標 17 橋に対し令和 2 年度までに 14 橋の完了が見込まれており、残り 3 橋についても継続的に修繕を計画している。
- ・しかし、橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁長寿命化修繕率、舗装修繕計画に基づく舗装修繕実施においては、少しずつではあるが進んできているものの、目標値を達成していない。
- ・その原因の一つとして、地方創生道整備推進交付金事業の交付率が望ましくなく、修繕が進んでいないのが現状である。
- ・道路ストック事業については、地方創生道整備交付金、社会資本整備推進交付金など国の補助を取得しながらの整備であり、全体的に要望額の 50%位の補助となっており思うような進捗が図れていない。

【さらなる推進に向けて】

- ・地域間交流や連携、産業・経済活動の発展や安全性・快適性・信頼性を確保するための交通網の整備を行ってきたが、限られた予算や交付金の交付率が望ましくないことなどにより、修繕率が進んでいないことが課題となっている。今後は、今以上に現状の課題を踏まえ、道路、橋梁など重要度、優先度をより精査し、効果的かつ効率的に維持修繕をしていくことが必要であり、計画の見直し等も行っていく必要がある。

施策方針 活気がある市街地をつくります

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「便利な市街地・中心地整備」の満足度	30.4%	—	30.8%	30.8%	45.0%	B
石田地区市街地整備進捗率	—	12.0%	13.8%	18.6%	25.0%	B
平井地区市街地整備進捗率	—	0%	11.2%	19.1%	13.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 市の活力を取り戻し、住みよいまちづくりを促進するため、駅前広場整備や商業活性化等事業など中心市街地活性化のための事業、市街地整備などを行ってきているが、「便利な市街地・中心地整備」の満足度は、目標値を達成していない。
- 平井地区市街地整備進捗率は目標値を達成しているが、当該事業は、国庫補助（社会資本整備総合交付金）を活用し整備を進めているが、要求額に対しおよそ半額の交付となっていることから、今後の事業の進捗に影響してくると考えられる。
- 一方、石田地区市街地整備進捗率は、目標値に達成しておらず、こちらも国庫補助（社会資本整備総合交付金）を活用した整備となっており、要求額に対しおよそ半額の交付となっていることが影響してきている。

【さらなる推進に向けて】

- 市の活力を取り戻し、住みよいまちづくりを促進するため、市街地整備等を行ってきているが、国庫補助金の要求額の半額の交付となっているため、国庫補助の財源確保に努め、市街地計画を進めていく。

施策方針 下水を処理し水環境を守ります

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「衛生的な下水・雨水の処理」の満足度	67.8%	—	69.8%	69.8%	75.0%	B
汚水処理普及率（全体）	61.5%	65.1%	67.1%	68.2%	66.1%	A
水洗化率（集合処理区域）	84.7%	89.4%	89.4%	86.4%	88.1%	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 下水道の適正な維持管理を行うとともに、汚水適正処理構想に基づく整備及び合併浄化槽の普及促進を進めており、「衛生的な下水・雨水の処理」の満足度は、目標値を達成していないものの、平成 26 年度に比べ、69.8%と増加している。
- 汚水処理普及率は、目標値を達成しているものの、浄化槽設置については、市民の自発性にゆだねられており、近年は設置基数が減少しており整備率の向上が進まない状況となっている。

【さらなる推進に向けて】

- 快適な住環境と公共用水域の水質保全に努めてきており、汚水処理普及率は目標を達成している状況である。今後は維持管理も含め、多額な費用がかかることが考えられ、コスト縮減となる工法の選択などを行い、整備費の削減を行っていきながら、さらなる整備を行っていくことが必要である。

施策方針 生活環境を保全します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「暮らす場の整備」の満足度	53.2%	—	58.0%	58.0%	57.0%	A
苦情解決割合	—	100%	100%	100%	100%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・事業所などから発生する公害に関する苦情を適切に処理することにより、生活環境の保全を図っており、新東名高速道路インターチェンジ周辺環境把握の為に近接する養鶏場周辺の臭気測定等を実施してきている。
- ・「暮らす場の整備」の満足度は増加しており、また、苦情解決割合も100%となっているが、測定結果や事業所への指導は個別案件に関わる事であるため、地域住民からの公表要望に苦慮している状況である。

【さらなる推進に向けて】

- ・騒音、振動、悪臭など市が指導権限を有する為、測定等の監視業務を行う必要がある。また、油漏れ等の緊急時対応は生活環境を守るために必要である。今後も、公害苦情に対し法令の規定に照らし、生活環境保全の為に監視や啓発、行政指導を行い、市民の生活環境を守っていく必要がある。

施策方針 子どもの教育環境を整えます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「学校教育施設の整備」の満足度	59.8%	—	57.6%	57.6%	65.0%	C
共育に係る講座参加人数	291人	369人/年	361人/年	320人/年	490人/年	B
作手小学校建設事業	—	88.7%	100%	100%	100%	A
鳳来寺小学校改修事業進捗率	—	100%	100%	100%	100%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・耐震化を始めとする学校施設の改修・整備を進めてきたが「学校教育施設の整備」の満足度は平成26年度に比べ、低くなっている。
- ・小学校建設、改修工事は完了している。
- ・教育理念である『共育』を市民へ伝え、伝わる環境の構築について、共育講座を開催しており、講座参加者数については各講座に定員があり目標数値に達していないが、平成30年度は15種類（17回）の講座を実施し、320名の参加者となっている。
- ・概ね各講座とも定員に達しているが、単発のイベント化しているため、『共育』が生涯学習の推進になるべく、継続した講座の開催方法や開催場所の選定に改善が必要である。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、子どもの「郷土を愛する心、人を愛する心」に満ちた人間形成を支援するとともに、安心して居心地のよい学校環境の創出に努めてきたが、学校教育施設の整備に満足している市民が減少している。また、共育に関わる講座参加者も増加しているものの、目標は達成できておらず、今後は、講座内容、場所、開催方法等の検討を進め、継続した講座の開催を行っていくことが必要である。

戦略3 安全・安心のくらし向上

施策方針 病院・診療所の体制を整えます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「地域医療等の充実」の満足度	35.0%	—	38.8%	38.8%	50.0%	B
「健康づくり支援の充実」の満足度	67.0%	—	72.0%	72.0%	70.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市民が地域で安心して暮らすための医療を提供するため、高度医療機器の導入や将来の地域医療を担う人材育成を目的とした臨床研修医の受入等を行うとともに、休日・夜間における初期医療の運営・支援、新城市民病院を機軸とした地域医療の充実を図ってきている。
- ・「地域医療等の充実」の満足度については、目標値に達成していないものの、満足度は高くなってきており、「健康づくり支援の充実」の満足度については、目標値を達成している。
- ・一方、休日診療所運営事業や夜間診療所運営事業においては、輪番を担当する新城市医師会の医師の高齢化に伴い、今後、輪番制の負担の増加が懸念される。インフルエンザの時期には、一日に多くの患者が診察を受けに来るため、医師の負担が増加している。
- ・訪問看護事業においては、高齢化社会の進行に伴い、今後、ニーズは増大していくと考えられるため、そのニーズに対応したサービスを検討する必要がある。医師、ケアマネジャーを始めとする関係職種との連携が必要不可欠であるため、そうした職種との連携を深めていく必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、市民が地域で安心して暮らせるための医療を提供してきており、休日・夜間診療所における第1次救急医療体制の充実は図られてきている。一方で、時期により一日に多くの患者が診察に来るなど、医師の負担が増加している。今後も、医師会等との連携を強化し、現在の体制を維持していくことが必要である。

施策方針 健康づくりを応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「健康づくり支援の充実」 の満足度	67.0%	—	72.0%	72.0%	70.0%	A
健康教育事業参加者数	延 3,200 人	延 2,540 人	延 2,786 人	延 3,022 人	延 3,300 人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 健康教育事業参加者数については、平成 27 年度まで実施していた介護予防教室の実施方法等
の見直しにより目標値を下回るものの、平成 29 年度は実施回数 107 回、参加者数 2,786
人、平成 30 年度は実施回数 113 回、参加者数 3,022 人と増加しており、目標達成に向け
て順調に推移している。
- 健康教育事業においては、各種健診等の結果に基づく健康教育や地区等の依頼による健康教育
を中心に行っているが、地区の課題解決のための健康教育への取り組みが課題である。

【さらなる推進に向けて】

- 健康講座の開催や健康相談の実施等により、市民の健康づくり支援についての満足度は高くな
ってきているものの、健康教育事業への参加者は減少しており、特に若年層の参加が少なくな
ってきている。市民の健康づくりを応援するため、特に働き盛りの世代に対する健康づくりの
働きかけを引き続き進める必要がある。

施策方針 地域内福祉・相互扶助活動を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「高齢者の自立支援や福祉対策」の満足度	59.9%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A
「障がい者の自立支援や福祉対策」の満足度	59.5%	—	66.1%	66.1%	65.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市民が抱える地域の暮らしの様々な困りごとに対して、地域住民や福祉関係のネットワークにより、身近な地域単位で解決できる仕組みづくりを進めており、高齢者及び障がい者の自立支援や福祉対策の満足度は増加している。
- ・目標は達成しているが、外出支援サービス利用拡大事業については、タクシーや福祉有償運送以外の交通手段に対する支援の検討が必要である。

【さらなる推進に向けて】

- ・配達空白地域が拡大しているため、事業内容の見直し、拡充が課題であり、また移動販売事業車両購入費等補助金により、2事業者が買い物困難地域で事業を展開しているが、今後も、身近な地域単位で解決できる仕組みづくりをさらに進めていくが必要である。

施策方針 高齢者の生きがい対策を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「高齢者の自立支援や福祉対策」の満足度	59.9%	—	65.5%	65.5%	65.0%	A
地域で支え合い活動実施地区(介護予防・生活支援)	17 地区	19 地区	22 地区	21 地区	24 地区	B
市内認知症サポーター人数	1,101 人	1,301 人	1,901 人	2,343 人	3,000 人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 高齢者の自立や社会参加の促進を図っており、地域で支え合い活動実施地区（介護予防・生活支援）は、目標値を達成していないものの、平成 26 年度の 17 地区に比べ、平成 30 年度では 21 地区と増加している。
- また、市内認知症サポーター人数においても、平成 26 年度の 1,101 人から増加し、平成 30 年度では 2,343 人となっている。
- 高齢者生きがい活動支援事業（住民主体の通いの場・ミニデイ）をはじめ、各事業ともにさらなる充実を図る必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- 高齢者の自立支援や地域での支え合い活動については、地域資源の把握と関係機関との連携、また専門職の派遣等により自立及び活動支援を行っていく。
- 認知症サポーターについては養成講座の実施にあわせ、その講師役となる行政以外の人材の活用を推進していくことにより実施箇所数の拡大を図る。

施策方針 地震防災対策を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「大地震対策への取り組み」の満足度	49.9%	—	51.7%	51.7%	55.0%	B
災害時要援護者の平常時における情報提供同意の確認割合	30.0%	55.0%	48.0%	42.0%	35.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 住宅の耐震改修・補強の促進や、応急対策に必要な資機材の整備や無線による情報伝達手段の確保を進めており、「大地震対策への取り組み」の満足度は、目標値は達成していないものの、平成 26 年度に比べ高くなっている。
- 住宅耐震化促進事業においては、木造住宅耐震診断件数は平成 29 年度では 80 件となっていたが、平成 30 年度では 52 件と少なくなっている。耐震化に関する取り組みを市民に徹底的に周知するため毎年 500 軒程度のローラー作戦を展開しているが、近年は耐震診断や耐震改修の実施件数が目標値を下回り伸び悩んでいる。
- 災害時要援護者の平常時における情報提供同意の確認割合は、目標値を達成しているものの、年々減少している。

【さらなる推進に向けて】

- 地域社会が効果的かつ効率的な被害軽減策を講じていくための地震防災対策を進めているが、耐震診断や耐震改修の実施件数は目標を下回っている。また、大規模災害時の飲料水の備蓄量も不安な状況となっている。
- また、災害時要援護者の平常時における情報提供同意の確認割合を高めることが、災害時の援助体制に大きく影響することからも、今後も確認割合を高めていくことが必要である。

施策方針 災害対応能力を強化します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「大地震対策への取り組み」の満足度	49.9%	—	51.7%	51.7%	55.0%	B
「地域の防災組織の充実」の満足度	62.3%	—	65.5%	65.5%	70.0%	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 地域における自主防災組織の充実や防災活動を推進するとともに、常備消防や消防団との連携・連帯を高める取り組みを進めてきており、活動補助金申請件数は年々増加し、平成 29 年度では 41 件、平成 30 年度では 45 件となっている。
- しかし、「大地震対策への取り組み」の満足度、「地域の防災組織の充実」の満足度ともに、平成 26 年度に比べたかくなっているものの、目標値を達成していない状況であり、自主防災組織の防災への意識の高揚を図る必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- 市民一人ひとりが防災意識を持てるよう、自主防災組織への理解を高めていくことが必要である。自主防災組織が主体となって防災活動を実施することで、いざというときに行動できるよう資機材の整備を進めることが必要である。

施策方針 防犯活動を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「防犯対策への取り組み」 の満足度	60.2%	—	64.6%	64.6%	65.0%	B
自主防犯ボランティア設 置（団体）	104 団体	95 団体	99 団体	97 団体	108 団体	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市民等との協働による安全・安心で快適なまちづくりに取り組んでいるが、「防犯対策への取り組み」の満足度は目標値を達成していない状況である。
- ・愛知県自主防犯団体登録数（自主防犯ボランティア設置団体）は、減少傾向にある。
- ・新東名高速道路、三遠南信自動車道が開通し、従前よりも市域へ入る人や車が増加しており、犯罪や交通事故の増加も懸念される状況であり、犯罪のない安全なまちづくりのためには、地域防犯力の強化が必要である。

【さらなる推進に向けて】

- ・市民等と協働による安心・安全で快適なまちづくりのため、防犯活動への支援を行っているが、自主防犯ボランティア設置団体数は減少していることから、各地域において、自主防犯団体の育成を行っていくことが必要である。

戦略4 環境首都向上

施策方針 循環型社会への取り組みを進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「環境対策への取り組み」 の満足度	61.0%	—	63.6%	63.6%	65.0%	B
環境改善率先行動宣言者 数	200人	369人	438人	480人	400人	A
学習会等への参加者数	1,500人	1,150人	1,550人	1,163人	1,900人	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策について、日常生活の仕組みとして確立させることを市民と行政が協働しながら展開しているが、環境対策への取り組みの満足度は目標値を達成していない状況である。
- 環境学習や環境教育に関する学習会への参加者数においては、平成30年度では1,163人と減少しているが、環境意識のより一層の醸成を図るため、見直しを行いながら取り組むことが必要である。

【さらなる推進に向けて】

- 環境負荷の少ない持続可能な循環型社会を実現するためには、市民及び事業者の環境に対するより一層の意識向上が不可欠であり、今後も市として必要な情報提供を行い、ごみの減量化、資源化に向けた意識の醸成と理解を深めるための取り組みを進める必要がある。
- 循環型社会に加え、地球温暖化を抑制する「低炭素社会」の実現にも配慮し、これらを統合的に実現するための取り組みを進める必要がある。

基本目標 2 結婚・出産・子育て環境を創る

【数値目標】

数値目標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
合計特殊出生率	1.35 (社人研推計) H31	—	—	—	1.59	—
出生数	289人	259人	220人	237人	320人	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

戦略 1 結婚の希望実現サポート

施策方針 出会いの場を創出します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
出会いイベント参加者満足度	—	84.3%	91.2%	95.3%	70.0%	A
出会いイベント参加者のカップリング率	—	37.0%	37.9%	16.0%	35.0%	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 結婚を希望する独身者を対象とした出会いの場を創出し、適当な相手に巡り合う機会を提供するため、平成 28 年度から結婚支援事業を実施し、出会いイベントを年 1 回開催している。
- 出会いイベントの参加者の満足度は高くなっているものの、カップリング率は平成 30 年度では 16.0%と低くなっている。
- 毎年、女性参加者確保に苦慮するが、平成 29 年度、平成 30 年度の企画については、募集開始早々から多くの女性から申し込みや問い合わせがあった。

【さらなる推進に向けて】

- 出会いイベントの参加者数の満足度は高くなっているが、カップリング率は低くなっているため、イベント実施後の支援体制等も含めた、事業の充実を図っていくことが必要である。

戦略2 安心・安全な妊娠・出産サポート

施策方針 子どもを産む環境を整えます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「子育てを応援するためのサービス」の満足度	65.7%	—	74.3%	74.3%	70.0%	A
「地域医療等の充実」の満足度	35.0%	—	38.8%	38.8%	50.0%	B
年間出生数	289人	259人	220人	237人	320人	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・妊婦・乳児健康診査の助成や受診率の向上、乳児家庭の全戸訪問による助言や支援などに取り組むとともに、不妊治療に要する費用の助成などを行い、「子育てを応援するためのサービス」の満足度は目標を達成している。
- ・妊産婦健診等受診回数は、平成29年度で延3,651回、平成30年度で延3,647回となっている。
- ・一般不妊治療費助成は、平成29年度で15回、平成30年度で10回となっている。
- ・しかし、年間出生数の減少がみられ、平成26年度に比べ、平成30年度では50人程度減少している。
- ・助産所運営事業においては、分娩以外の業務は改善傾向にあるものの、分娩件数については、出生数の減少や豊川市内での民間産科医療機関の開院といった状況の変化に伴い、目標数値を大きく下まわっている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、妊婦・乳児健診の助成や不妊に悩む夫婦に対する不妊治療に要する費用の助成などを行っているが、出生数は減少している。本市で、子どもを産み、育てたいと思う市民を増やしていくためにも、ニーズを把握し、細やかな子育て支援を行っていくことが必要である。

戦略3 子育ての負担軽減・安心サポート

施策方針 子どもを育てる環境を整えます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「子育てを応援するためのサービス」の満足度	65.7%	—	74.3%	74.3%	70.0%	A
子育て支援施設利用延べ人数	10,000人	16,848人	21,752人	19,631人	12,000人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 地域をあげた子育て支援の仕組みづくりや安心して子どもを育てることができる環境づくりの推進し、平成29年4月から狭小であった千郷東こども園内の地域子育て支援センターを新設した城北こども園内に規模拡大し移転させたことで利用者の増加を図り、在宅育児支援を充実させた。
- また、小規模保育所2施設に対し保育給付費を支給し、3歳未満児保育の需要に対し供給の確保を図った。
- 子育て支援施設利用延べ人数においても、目標値を大きく上回っており、「子育てを応援するためのサービス」の満足度も目標値を達成している状況である。

【さらなる推進に向けて】

- 地域をあげた子育て支援の仕組みづくりや安心して子どもを育てることができる環境づくりを勧めており、子育てを応援するためのサービスの満足度は高くなっている。今後も、ニーズを把握し、そのニーズに応じた支援を行っていくことが必要である。

施策方針 保育ニーズに対応する保育サービスを進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「子育てを応援するためのサービス」の満足度	65.7%	—	74.3%	74.3%	70.0%	A
合計特殊出生率	1.35 (社人研推計) H31	—	—	—	1.59	—
放課後児童クラブ開設箇所数（通年）	14 か所	16 か所	17 か所	17 か所	15 か所	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市では、保育ニーズに対応するため、平成 30 年 4 月からこども園における 3 歳以上児の基本保育時間の保育料を無償化できるよう条例を整備した。
- ・城北こども園（新城地区こども園）について、平成 29 年 3 月の園舎竣工に引き続き、園庭整備を完了させ事業完了した。
- ・平成 29 年 4 月から市内 1 か所の企業主導型保育を開設できた。また市政番組で PR を行い平成 30 年 4 月以降の普及促進の準備を進めた。
- ・平成 28 年 4 月から市内の全小学校に放課後児童クラブを設置し継続運営しており、解説箇所数も目標値を達成している状況である。
- ・分散開設していた千郷児童クラブ、遠隔地開設していた舟着児童クラブについて、小学区隣接に専用施設を建設し、併せて施設定員の増加を図った。
- ・放課後児童対策事業においては、児童クラブの長期休暇中の利用者は近年急増傾向にあることから、場所や支援員の確保と人材の育成が改題となっている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、保育ニーズに対応できるよう、3 歳以上児の基本保育時間の保育料を無償化や認定こども園化など、供給施策と展開しているが、学童クラブなどを含め今後の保育ニーズを適切に把握し、環境を整えていくことが必要である。

基本目標 3 市内にしごとを創る

【数値目標】

数値目標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
市内事業所数（工業）	162 事業所 (H24 工業 統計調査)	156 事業所	149 事業所	155 事業所	175 事業所	C
市内従業員数（工業）	6,683 人 (H24 工業 統計調査)	7,415 人	7,234 人	7,485 人	7,400 人	A
市内企業への就業率（市内 高校卒の市内生徒）	40.5% (H25)	40.5%	24.1%	28.0%	50.0%	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

戦略 1 企業誘致の推進

施策方針 企業誘致を進め、雇用を確保します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第 2 次産業（鉱業、建設、製造業）の振興」の満足度	43.2%	—	49.2%	49.2%	47.0%	A
立地企業（延べ数）	—	0 社	0 社	2 社	1 社以上	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・新東名インターチェンジを中心とした良好な立地条件を活かし、新たな産業育成、企業誘致に取り組み、地域経済の活性化と就業の場の確保を促進しており、平成 30 年度の新規立地企業は 2 社となっている。
- ・市内立地企業へ奨励金および補助金の交付により企業の設備投資等への負担軽減を図った。
- ・新城南部企業団地は、30 年度に 2 区画販売し操業済、残り 1 区画については契約済(31 年度に操業予定)のため完売。
- ・新城インター企業団地は、30 年度に 1 区画契約済、残り 2 区画については複数企業から問い合わせがあり、交渉中。
- ・企業用地等開発推進事業においては、企業用地の分譲開始に際し、企業への PR や分譲相手先企業の選定等、土地開発公社と市関係部局とのより緊密な連携が必要。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、新たな産業育成、企業誘致に取り組み、地域経済の活性化と就業の場の確保、税収の増加を図っており、平成 30 年度の新規立地企業は 2 社となっている。しかし、企業誘致については、他地域との競争がさらに厳しくなると考えられるため、今後も積極的な企業誘致活動を行っていくことが必要である。また、地域企業の新規高校卒業者の求人に対して未充足が多く、働き手の確保に苦慮している状況であり、企業との出会いの場を設定し、地元企業を知ってもらうことで就職の際の選択肢の一つにしてもらうことが必要である。

戦略2 起業の促進

施策方針 がんばる中小企業を応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第2次産業（鉱業、建設、製造業）の振興」の満足度	43.2%	—	49.2%	49.2%	47.0%	A
「第3次産業（サービス業）の振興」の満足度	33.4%	—	34.6%	34.6%	45.0%	B
新規事業所数（延べ数）	—	6件	9件	33件	10件	A
廃校舎利用起業者数（延べ数）	—	4件	5件	5件	7件	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・市内中小企業を中心とする既存産業を支援するため、経営基盤の強化と新たな企業に向けた補助制度等により、新規事業所数は33件（平成28年6件、平成29年3件、平成30年度24件）と目標値を大幅に上回っている。
- ・一方、廃校舎利用起業者数は、旧菅森小学校でのレストラン開業など利用者が拡大しているものの、目標値を達成していない状況となっている。
- ・創業支援補助事業においては、起業創業へのニーズ調査と、補助金の必要性について再検討する必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- ・市内中小企業を中心とする既存産業を支援するため、経営基盤の強化と新たな企業に向けた補助制度等により、新規事業所数については、目標を大幅に超えた数となっている。今後は、金銭面的なサポートだけでなく、起業創業に必要なノウハウなどを身につけることのできる支援等も充実していく必要がある。

戦略3 仕事の安定向上

施策方針 地域産業振興政策を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第1次産業（農林水産業）の振興」の満足度	52.5%	—	54.8%	54.8%	55.0%	B
「第3次産業（サービス業）の振興」の満足度	33.4%	—	34.6%	34.6%	45.0%	B
経営等改善事業所	—	11件	5件	10件	12件	B
ビジネスマッチング (延べ数)	—	0件	1件	37件	12件	A
女性創業者数(延べ数)	—	0件	3件	10件	6件	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「第1次産業の振興」の満足度及び「第3次産業の振興」の満足度については、現時点で目標を達成していないものの、目標達成に向け農協や商工会等と連携した取組を進めている。
- ・経営等改善事業所については、新城市商工会と連携して小規模事業者を対象とした相談を実施しており、経営指導員等による経営革新に係る指導を年平均8.7件実施した。
- ・ビジネスマッチングについては、販路拡大へ取り組む市内企業が企業展等へ出展する際の基本出展料の一部を補助しており、その制度を活用し37件（平成29年度1件、平成30年度36件）の商談が成立している。
また、中高生を対象とした「しんしろ企業展」を開催し、企業側の働き手の確保と中高生が将来の職業選択の幅を広げる支援を実施している。
- ・男女共同参画を促進するための学習、啓発活動、プラン策定等を行い、市民の理解を深めるとともに、子育てしやすい、女性が働きやすい環境の整備や、起業支援を行ってきており、女性創業者数は、10件（平成29年度3件、平成30年度7件）と目標を達成している。

【さらなる推進に向けて】

- ・小規模事業者における経営改善資金の需要は引き続き高く、市内事業者の経営安定のため、商工会と連携した相談や支援等の取組を引き続き実施していく必要がある
- ・市内事業者における新規高校卒業者の求人に対する未充足が多く、働き手の確保に苦慮する状態が続いていることから、中高生を対象とした企業展の開催等の取り組みを引き続き実施していくとともに、市内事業者の販路拡大や取引先開拓に関連した支援を継続する必要がある。
- ・起業を目指す方が気軽に相談できる窓口の設置など、起業創業を目指す方への対応をスムーズにするほか、起業創業への意識やニーズについて情報収集を進め、取組に反映させていく必要がある。

施策方針 森林の保全・整備を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第1次産業（農林水産業）の振興」の満足度	52.5%	—	54.8%	54.8%	55.0%	B
技術習得者累計数	10人	16人	13人	24人	15人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 技術習得者累計数は、平成30年度で24人と目標値を達成しているものの、未来づくり事業においては、地域の豊かな森林資源や施業に対する理解を深めるための普及・啓発という部分において、近年アピールが薄らいでいる感がある。

【さらなる推進に向けて】

- 市では、地域の森づくりの進め、技術習得者数は大幅に増加している。今後も、担い手育成に向けた支援を継続的に行っていくことが必要である。

施策方針 林業生産活動を応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第1次産業（農林水産業）の振興」の満足度	52.5%	—	54.8%	54.8%	55.0%	B
新規林業就業者数 (延べ数)	—	2人	3人	3人	5人	B
新規年間木材搬出材積	—	0 m ³	0 m ³	0 m ³	1,000 m ³	B
新設木質バイオマスエネルギー利用施設	—	0 施設	0 施設	1 施設	1 施設以上	A
新規雇用3部門（出材、用材需要、バイオマス需要部門）	—	0 社	0 社	1 社	1 社	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・新規林業就業者数は、平成30年度では3人（平成28年2人、平成29年1人）と目標値を達成していない状況である。
- ・人材育成事業で、平成30年度は対象者のうち1名が本事業の助成を活用した資格取得講習を受けたが、育成期間内において更なる技術的向上に向けた積極的な事業活用が求められる。
- ・新設木質バイオマスエネルギー利用施設は平成30年度で1施設となっており、今後、市の林業の活性化を図るためには、地域森林資源の利用促進を図っていくことが必要である。

【さらなる推進に向けて】

- ・林業を業として成立させるための支援を行ってきたが、新規林業就業者は目標を達成することができていないため、更に県等が主催する実務研修、資格取得に向けた各種講習について積極的に受講できるよう、組合の育成体制指導を進めていくなど、人材育成を強化していくことが必要である。

施策方針 農業生産物の消費拡大を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第1次産業（農林水産業）の振興」の満足度	52.5%	—	54.8%	54.8%	55.0%	B
学校給食における地場産品を供用する割合	16.0%	14.6%	13.5%	12.8%	30.0%	C

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 学校給食における地場産品を共有する割合は平成30年度で12.8%と平成26年度に比べ低くなっている。
- 地産地消・食育普及活動事業においては、学校給食における市内産農産物の利用促進の方策を検討する必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- 小中学校等における食育、消費者との信頼関係による消費の拡大、地産地消を推進し、農業の振興を図ってきたが、学校給食にける地場産品を供用する割合は減少している。学校給食における市内産農産物の利用促進の方策を検討する必要がある。

施策方針 農業生産活動を応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「第1次産業（農林水産業）の振興」の満足度	52.5%	—	54.8%	54.8%	55.0%	B
認定農業者数	91人	80人	80人	85人	103人	C
新規就農者数（延べ数）	17人	1人	24人	42人	39人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「第1次産業の振興」の満足度については、現時点で目標を達成していないものの、目標達成に向け農協等と連携した取組を進めている。
- ・認定農業者については、更新者の減少により、平成30年では85人と低くなっている。
- ・新規就農者数については、平成30年で42人と目標値を達成している。

【さらなる推進に向けて】

- ・高齢化により認定農業者数は減少傾向にあるが、新規就農者は増加しており、今後認定農業者になり得る人材は着実に増加している。
- ・農業経営の安定と農業生産活動を推進してきたが、認定農業者数の減少とともに、特に水田農業の担い手が減少しており、早期の対応策が必要となっている。

基本目標4 市内へのひとの流れを創る

【数値目標】

数値目標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「暮らす場の整備」の満足度	52.3%	—	58.0%	58.0%	57.0%	A
定住人口（国勢調査）	45,482人 (社人研推計) (H31)	48,122人 (住基人口)	47,512人 (住基人口)	46,860人 (住基人口)	45,680人	—
観光入込客数	1,929千人	3,609千人	3,241千人	3,044千人	3,000千人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

戦略1 定住人口の流入促進

施策方針 活気ある市街地をつくります

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「便利な市街地・中心地整備」の満足度	30.4%	—	30.8%	30.8%	45.0%	B
石田地区市街地整備進捗率	—	12.0%	13.8%	18.6%	25.0%	B
平井地区市街地整備進捗率	—	0%	11.2%	19.1%	13.0%	A

達成評価 A：目標達成 B：目標は達成していないものの改善・維持
C：基準値に比べ悪化 D：基準値がなく目標達成できていないもの

【進捗状況の詳細】

- ・市の活力を取り戻し、住みよいまちづくりを促進するため、駅前広場整備や商業活性化等事業など中心市街地活性化のための事業、市街地整備などを進めているが、「便利な市街地・中心地整備」の満足度は目標値を達成できていない状況である。
- ・平井地区市街地整備進捗率は目標値を達成しているが、当該事業は、国庫補助（社会資本整備総合交付金）を活用し整備を進めているが、要求額に対しおよそ半額の交付となっていることから、今後の事業の進捗に影響してくると思われる。
- ・一方、石田地区市街地整備進捗率は、目標値に達成しておらず、こちらも国庫補助（社会資本整備総合交付金）を活用した整備となっており、要求額に対しおよそ半額の交付となっていることが影響してきている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市の活力を取り戻し、住みよいまちづくりを促進するため、市街地整備等を行ってきているが、国庫補助金の要求額の半額の交付となっているため、国庫補助の財源確保に努め、市街地計画を進めていく。

施策方針 良質な住宅の整備を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「暮らす場の整備」の満足度	53.2%	—	58.0%	58.0%	57.0%	A
住宅用地の選定	—	検討中	検討中	検討中	2 地区	B
鳳来中部地区の住宅用地開発	—	検討中	検討中	検討中	着手	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「暮らす場の整備」の満足度は、目標値を達成している。
- ・「住宅用地の選定」「鳳来中部地区の住宅用地開発」は、引き続き検討を行っている。
- ・その他、民間事業者が行う宅地開発事業等については、随時、相談に乗っている。

【さらなる推進に向けて】

- ・良好な居住環境の住宅地整備を進め、住宅用地の確保については、引き続き進めていくことが必要である。

施策方針 移住・定住を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「暮らす場の整備」の満足度	53.2%	—	58.0%	58.0%	57.0%	A
空き家登録件数	—	14件	29件	30件	50件	B
空き家契約件数（延べ数）	—	3件	11件	12件	25件	B
地域おこし協力隊移住定住者数（延べ数）	—	2人	2人	3人	4人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 空き家登録件数、空き家契約件数ともに、目標値を下回っている状況である。空き家バンクのウェブサイトを開設しているが空き家登録件数も少なく契約に結びついていない。より広く情報提供を発信、事業効果を高めるために、民間のノウハウを生かした運営が必要である。
- 地域おこし協力隊移住定住者は、平成 28 年度に 2 人、平成 30 年に 1 人が市内に定住しており、目標値達成に向けて順調に推移している。

【さらなる推進に向けて】

- 移住・定住促進及び交流人口の増加を図り、活力ある地域づくりを進めてきたが、空家登録件数・契約件数ともに目標値を下回る状況となっている。より広く情報提供を発信、事業効果を高めるために、民間のノウハウを生かした運営が必要である。

戦略2 定住人口の流出抑制

施策方針 公共交通網の整備と利用向上を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」の満足度	36.2%	—	35.5%	35.5%	55.0%	C
新城～名古屋間高速バス乗客	—	17.9人/日	35.78人/日	35.9人/日	120人/日	B
高校生アンケート(住み続けたいが、通勤・通学が不便だからできない)	47.5% (H27)	—	35.0%	35.0%	35.0%	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」の満足度は、平成26年度を下回っている状況である。
- ・新城～名古屋間高速バス乗客は、目標値を大きく下回っている状況となっているが、・曜日、便数により利用者数が異なる。分析の上、最も適した運行方法を探る必要がある。

【さらなる推進に向けて】

- ・公共交通の不便を解消し、暮らしやすいまちにするため、新東名高速道路を活かした新たな公共交通として新城名古屋間の高速バス運行事業を進めてきたが、通学や生活の足としての公共交通機関等の充実の満足度は下がっており、また高速バス乗客数も目標を大きく下回るものとなっている。定住人口抑制のみならず、交流人口の拡大のため、マーケティング分析等を通して市内外の潜在的なニーズを把握するとともに、観光施設等の事業所との連携を強化し、さらなる利用者拡大を図る必要がある。

戦略3 交流人口の流入促進

施策方針 情報の発信と共有を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「市の広報・広聴の充実」 の満足度	66.7%	—	69.3%	69.3%	68.0%	A
市ホームページアクセス 件数	22,400 件	33,797 件	37,641 件	28,819 件	30,000 件	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・「市の広報・広聴の充実」の満足度については目標を達成している。
- ・市ホームページアクセス件数については、目標を上回り順調に推移していたものの、平成30年度においては目標を下回った。
- ・広報紙においては、市民目線の広報記事を掲載するため、市民編集員との協働による特集記事を年4回程度掲載し、H30年度愛知県広報コンクールにおいて、市部の奨励賞（H30年9月号）を受賞した。
- ・ホームページにおいては、迅速で利用者に分かりやすい情報提供を行うため、ホームページ作成者研修等による指導やアクセシビリティチェックを実施している。
- ・広報プロジェクトチームを発足し、広報紙デザイン、HPリニューアル、広報プロモーションについて協議検討を進めている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、市政の情報並びに市の魅力を、市内外に向けて提供をしてきており、市HPのアクセス数は増加傾向にあり、市の広報・公聴の充実の満足度も高くなっているが、今後も、更なる情報共有に向けて、よりわかりやすい発信の方法を検討していく必要がある。
- ・ホームページは、開設から10年が経過し、デザインやカテゴリ等の変更が必要であるとともに、スマートフォンからの閲覧に対応できていない現状となっている。最近では多くの閲覧者が、スマートフォンから市HPを閲覧することから、そのニーズに応えるためリニューアルが必要である。

施策方針 国際交流活動を応援します【再掲】

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「国際交流への取り組み」 の満足度	63.6%	—	67.4%	67.4%	66.0%	A
海外派遣参加者が市政に 興味を持ち、市の行事に参 加する（延べ数）	5人	7人	14人	25人	50人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・新城市国際交流協会の活動を核に、民間の国際交流団体への支援や文化交流事業を実施、青少年の海外派遣、学校間交流などの機会の提供を行ってきており、姉妹都市から国際交流員を招致し、NC会議に貢献した。
- ・また、また、国際交流協会とも協力しながら、市民とスイス・ヌシャテルの合気道チームの交流活動を行ってきており、「国際交流への取り組み」の満足度は、徐々に増加傾向となっている。
- ・海外派遣参加者が市政に興味を持ち、市の行事に参加する人数においては、目標値に届いてはいないが、平成30年に開催されたニューキャッスル・アライアンス会議では、おおよそ7千人が関わり、市内全13小学校の児童がイベントに参加したり、多くの中高生がボランティアやユース部に参加し、外国人参加者との交流を通して、若者の間でも国際交流の関心が高まってきた。

【さらなる推進に向けて】

- ・市では、グローバル人材育成事業や、市国際交流協会支援事業、ニューキャッスル・アライアンス会議などを通して国際交流の機会の場を提供し、国際交流への取り組みへの満足度は増加した。市内とスイス・ヌシャテルの高校生の交流等、教育、ビジネス、文化、観光の4分野で、他の加盟都市と協力し、ニューキャッスル・アライアンスの枠組みを活かしながら、海外派遣参加者はもちろんのこと、市全体が交流できる機会を創造していきたい。

施策方針 地域資源を活かした観光戦略を進めます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「にぎわいの創出と交流人口対策」の満足度	44.0%	—	45.8%	45.8%	60.0%	B
新城ラリー経済効果	890,000千円	1,110,000千円	1,129,200千円	2018年 1,129,200千円 2019年 1,024,700千円	900,000千円	A
湯谷温泉入込客数	71千人	52千人	50千人	46千人	74千人	C
市への観光入込客数	1,929千人	3,605千人	3,241千人	3,044千人	3,000千人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- 新東名高速の開通効果や大河ドラマの影響も一段落し、市への観光入込客数は目標を上回ったものの前年より20万人も減少している。
- 市への誘客促進のため、高速道路のサービスエリアでプロモーション事業を実施した。
- 今後も、ラリーをはじめとした新城の自然を生かしたアウトドアスポーツイベントを安定的に開催するほか、日常的にアウトドアスポーツを楽しめる環境を整え、交流人口の増加を図っていく。あわせて、効果的なPR活動を行うことにより、新城への誘客促進を図る。

【さらなる推進に向けて】

- 今後、観光基本計画との整合性を図りながら、元々ある市内の観光資源やイベント等を活用した取組を推進していくとともに、元々ある資源とスポーツの融合等ニューツーリズムを取り込んだ観光戦略を検討し、観光資源を検討するとともに、観光入込客数の増加を図っていく必要がある。

施策方針 観光施設を有効に活用します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「にぎわいの創出と交流人口対策」の満足度	44.0%	—	45.8%	45.8%	60.0%	B
桜淵公園入り込み客数	129千人	171千人	150千人	159千人	179千人	B
道の駅「もっくる新城」来場者数	—	1,547千人	1,246千人	1,191千人	1,000千人	A
道の駅「鳳来三河三石」来場者数	60千人	40千人	39千人	36千人	66千人	C
道の駅「つくで手作り村」来場者	110千人	113千人	144千人	134千人	120千人	A

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・桜淵公園入り込み客数、道の駅「鳳来三河三石」来場者数ともに、目標値を達成していない状況となっている。一方、道の駅「もっくる新城」、道の駅「つくで手作り村」の来場者数は、目標値を達成しているものの、平成28年度から減少している。
- ・道の駅管理事業においては、新東名開通及び大河ドラマ効果が落ち着いた中、前年の数値は下回ったものの各道の駅が創意工夫を凝らし来場者数増加の努力を行った結果、目標を上回る結果となった。

【さらなる推進に向けて】

- ・道の駅「もっくる新城」の来場者数は減少傾向にあるが、「奥三河の観光ハブステーション」として今以上に人が集う交流の拠点施設となるため、指定管理者、観光案内所による運営面の創意工夫を継続して行っていくほか、市として適正な維持管理に努めることが必要である。また、桜淵公園の再整備を行い公園をリニューアルすることで、市の主要観光地としての利用促進を図る。

施策方針 光ファイバネットワークを有効に活用します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「地域情報化への取り組み」の満足度	67.8%	—	73.2%	73.2%	70.0%	A
市への観光入込客数	1,929 千人	3,605 千人	3,241 千人	3,044 千人	3,000 千人	A
桜淵公園入り込み客数	129 千人	171 千人	150 千人	159 千人	179 千人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- Wi-Fi 整備事業においては、本庁舎 38 基、鳳来総合支所 1 基、図書館 1 基を設置している。

【さらなる推進に向けて】

- さらに、市の観光資源等に Wi-Fi ステーション及び無線アクセス装置を整備し、観光情報等を提供することで観光地への誘客を図っていく必要がある。

施策方針 魅力ある商店街づくりを応援します

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「便利な市街地・中心街の整備」の満足度	30.4%	—	30.8%	30.8%	45.0%	B
イベント（軽トラ市）集客数	28千人	28千人	29千人	29千人	31千人	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ・イベント（軽トラ市）集客数は、目標値を達成しておらず、またここ数年は横ばいとなっている。
- ・しんしろ軽トラ市は平成22年に開始してから9年が経過し市内外に定着しており、出店者、集客は安定的に見込めるようになったが、今後さらに充実し継続的に開催するにあたり運営体制や開催方法等今後のあり方を考えることが必要となっている。

【さらなる推進に向けて】

- ・市街地を形成する商店街の魅力を高めるため、商業者の経営改善の支援などを進めてきた。イベントの集客数は横ばいで推移しており、さらなる充実と集客力の向上のため、運営体制や開催方法等今後のあり方を考えることが必要である。

施策方針 地域の環境を学びます

【重要業績評価指標（KPI）】

重要業績評価指標	基準値 (H26)	H28	H29	現状値 (H30)	目標値	達成 状況
「環境対策への取り組み」 の満足度	61.0%	—	63.6%	63.6%	65.0%	B
ジオツアー参加者数	40人	90人	71人	60人	60人	A
日本ジオパーク認定	—	申請準備中	申請準備中	申請準備中	認定	B

達成状況 A：目標達成 B：改善・現状維持 C：悪化

【進捗状況の詳細】

- ジオツアー参加者数は、目標値を達成しているものの、平成28年度からは減少している。
- ジオパークの取り組みは、日本では11年目と浅く、まだまだ認知度が低いものであるため、より多くの地域住民が認知することが必要である。また、住民自らジオパークを活用していく仕組みや持続可能な運営体制の構築が必要となる。

【さらなる推進に向けて】

- 「共通の資源」としてとらえ、地域における教育や観光事業に活用し、持続可能な地域社会の活性化をはかるため、ジオパーク構想を東三河の広域で進めてきているが、日本ジオパークへの認定は達成しておらず、地域住民のジオパークの認知を高めるとともに、住民自らジオパークを活用していく仕組みや持続可能な運営体制の構築が必要である。